

AIとピア・サポートで実現する未来志向のアカデミック・アドバイジング

上 畠 洋佑 (新潟大学 教育基盤機構 准教授)

講師略歴

専門は高等教育論。金沢大学国際基幹教育院特任助教、愛媛大学教育・学生支援機構特任助教等を経て、2023年1月より現職。新潟大学・全学分野横断創生プログラム(NICEプログラム)と未来教育推進コア事業の文部科学省への申請業務を担当し、現在分野横断教育ユニット長としてその運営を担っている。主要な著書に、『知識集約型社会における新潟大学の挑戦—メジャー・マイナー制の戦略的全学展開』、『コロナ禍で学生はどう学んでいたのか～質的研究によって明らかになった実態』がある。

プログラム概要

文部科学省「我が国の『知の総和』向上の未来像」において、学生一人ひとりの主体的・分野横断的な学びを支えるアカデミック・アドバイジングの重要性が示されました。また、生成AIの発展により、大学における学生・学修支援のあり方も大きく変化しつつあります。こうした背景のもと、教職員による支援と学生同士のピア・サポートを組み合わせた新たな支援体制の構築が必要であると新潟大学では考えています。

本プログラムでは、新潟大学におけるアカデミック・アドバイジングおよびNICEプログラムSA(スチューデント・アシスタント)によるピア・サポートの実践を紹介します。具体的には、SAが生成AIを活用して実施した研修事例や、学内生成AIコンペで優勝した受講生マッチングシステムの事例を共有します。これらの実践を踏まえ、参加者が自大学における未来の学生・学修支援のあり方を構想し、還元可能なヒントを得ることを目指します。

準備物・事前課題

所属大学の学生・学修支援及びアカデミック・アドバイジング、ピア・サポートの現状の整理

主な受講対象者

1. 学生・学修支援に関わる教職員
2. ピア・サポートに取り組む学生

到達目標

1. 新潟大学アカデミック・アドバイジングの実践を知ることにより、自大学に還元可能なヒントを思いつくことができる。
2. 新潟大学ピア・サポートの実践を知ることにより、自大学に還元可能なヒントを思いつくことができる。
3. 自大学の未来の学生・学修支援のあり方を描くことができる。